壱岐島と飛鳥宮

しくみ

■ 長島神社 576.75km － 都塚古墳 － 大沼浮島 576.75km
■ 大島神社 575.72km － 飛鳥寺 － 大沼愛宕神社575.72km

詳細

■ 大島神社 575.72km － 飛鳥寺 － 大沼愛宕神社
575.72km

大島神社

祭神　湍津姫命・田心姫命・市杵島姫命
壱岐市郷ノ浦町大島696番地

飛鳥寺

５９６年(推古4)に蘇我馬子によって建てられた本格的な伽藍配置の日本最古の大寺院。本尊も日本最古の大仏「飛鳥大仏（釈迦如来像）」。なぜか国宝ではない。近くには大化の改新（乙巳の変）で滅ぼされてしまった蘇我氏、「蘇我入鹿の首塚」がある。
奈良県高市郡明日香村大字飛鳥682

大沼愛宕神社

不明。浮島稲荷神社駐車場奥の大沼集落を見下ろす高台にある。

備考　このしくみもとても興味深い。渡良三島の一つ大島の大島神社に近いがぶつからないので、逆にコンパスを広げたら浮島稲荷神社近くの愛宕神社にぴったりつながった。（携帯電話で写した写真

の情報を開くと正確な位置を確認できる）この愛宕神社とのつながりがあるとすれば、これまでわずかなズレで割愛した多くのしくみも生きてくるのかもしれない。

■ 長島神社 576.75km － 都塚古墳 － 大沼浮島 576.75km

長島神社

年年月日他不詳。崇敬者はこの島の住人十数戸と記されています。以前は長島の高台にあったものを現在の位置に移したとされます祭　神：湍津姫（たぎつひめ）命、田心姫（たごりひめ）命、市杵嶋姫（いちきしまひめ）命。長崎県壱岐市郷ノ浦町長島６８４

都塚古墳

別称を「金鳥塚」。6 世紀後半（古墳時代後期）の築造で、被葬者は蘇我稲目と推定される。類例のほとんどない「階段ピラミッド」形状を持つ古墳として知られる。この都塚古墳は、6 世紀後半の築造と推定され、築造には約 3 万人が関わったと推計されている。一帯は飛鳥時代において蘇我氏が勢力を持った地域とされており、蘇我馬子の墓と推定される石舞台古墳や、馬子の邸宅と推定される島庄遺跡などが知られる。本古墳についても、石舞台古墳よりやや遡ることから馬子の父の蘇我稲目（欽明天皇 32 年（570 年?）没）とする説が挙げられている。奈良県高市郡明日香村阪田

大沼浮島（出島）

湖畔にある大沼浮嶋稲荷神社（祭神/宇迦之御魂神）の神池とされ狐の形をしている。沼には大小の葦の島が風や流れに関係なく浮遊し、江戸時代には国の数 32 あり、その動きで吉凶を占っていたとされる。沼は白竜湖とも呼ばれ弁財天が祀られている。大円寺『朝日嶽縁起』（1505 年）によると、朝日岳の麓に御手洗の「大富沼」があると記されている。

白鳳 9 年（681）役の小角（役の証覚・役の行者）が弟子の覚道を連れて出羽路に来た折、大谷川（朝日町大谷）のほとりで梵字が記された板碑が流れくるのを見つけ、川をさかのぼり、60 余りの島が浮遊する神池大沼を見つけた。湖畔に浮島稲荷大明神を祀り、弟子覚道を別当（大行院）とし朝日岳修験が行なわれた。建久 4 年（1193）には寒河江荘地頭となった大江広元の進言により源頼朝の祈願所になり、その後も大江家、徳川家、最上家にも祈願所として崇敬された。国指定名勝。山形県西村山郡朝日町大沼

備考/浮島は、現在は数も減り、岸に付き動かないことが多いが、動く時は流れや風に関係なく意志があるかのように動き回り驚く。役の小角は梵字が書かれた板碑が流れてきたのを見つけたのだから、すでに大沼は異教徒の浮島信仰の地だったはず。稲荷神社の神池とされるが、元々「大富沼」が大沼なら出雲系「富一族」の祀る沼だったのだろう。大朝日岳にも大富観音が祀られていた。元々弁財天や龍神の神池に稲荷神が祀られたのだと考えられる。あるいは、730 年に「**大沼社**を南西の丘に移す」記述があるが、その時に稲荷社にすり替えられたのかもしれない。いずれにせよ、古いしくみはほとんどが稲荷神社ではなく大沼の鳥居の立つ「出島」（写真）が起点となっている。弁財天を祭神とする大沼浮島社（仮称）はここにあったはず。全国に散らばる浮島神社の総本宮ではないか。そして、多くの神社の神池に浮島のごとく島が作られ弁財天や市杵島姫が祀られているのも本来は分社だったのではないだ

ろうか。池に囲まれた古墳すらも浮島に見えてくる。古代史を探る時、きっと浮島信仰は重要な鍵になると思われる。

備考　ピラミッドと同じ作りとして有名な都塚古墳。長島神社はナーガ島（蛇族の島）と考えればとても神聖な島。

（参考1）正確な大極殿跡地がわからないので特定できない。
■壱岐渡良三島 － 飛鳥岡本宮大極殿（1期）－ 大沼浮島
■壱岐渡良三島 － 飛鳥板蓋宮大極殿跡(2期）－ 大沼浮島
■壱岐渡良三島 － **後飛鳥岡本宮(3期A）** － 大沼浮島
■壱岐渡良三島 － **飛鳥浄御原宮(3期B）** － 大沼浮島

飛鳥岡本宮大極殿（1 期）
I 期は舒明天皇の飛鳥岡本宮（６３０～６３６）。舒明８年（６３６）焼失で田中宮に遷る。約２０°西に向いていた。
奈良県高市郡明日香村岡
http://asuka.huuryuu.com/kiroku/teireikai-33/teireikai33-2.html

飛鳥板蓋宮大極殿跡(2期)
建物の造営方位を正方位に向けた最初の王宮。宮殿は南北１９８ｍ以上、東西１９３ｍと推定される。乙巳の変（６４５）で、大化元年（６４５）孝徳天皇難波遷都、遷都後も維持管理された。奈良県高市郡明日香村岡

後飛鳥岡本宮(3期A)
斉明天皇。斉明元年（６５５）飛鳥板蓋宮で即位、飛鳥板蓋宮が火災焼失、同じ場所に造営される。酒船石遺跡・亀形石槽など導水施設、漏剋と推定される水落遺跡、飛鳥京苑池遺構などの造営。王権による時間の支配がはじまる。天智６年（６６７）天智天皇が近江大津遷都後も維持管理されていた。

飛鳥浄御原宮(3期B)
Ⅲ期Ｂは天武・持統天皇の飛鳥浄御原宮（６７２～６９４）。壬申の乱の乱（６７２）に勝利した大海人皇子（天武天皇）は、都を近江から飛鳥に遷し、翌年この宮に即位した。宮は、甘樫丘東方の旧飛鳥小学校付近にあったとされたが、その後の調査により、伝飛鳥板蓋宮跡の上層（Ｂ）遺構が飛鳥浄御原宮にあたる可能性が有力視されている。大極殿を造営して飛鳥浄御原宮（命名は朱鳥元年６８６）とした。
朱鳥８年（６９４）持統天皇藤原京に遷都。

備考

斑鳩宮や法隆寺若草伽藍金堂と同じように、I期の飛鳥岡本宮（630～636）は西に20度向いていた。やはり、壱岐と大沼・大朝日岳を左右極に置く都造りをしているのではないか。そしてここも焼失している。このしくみを壊したかった者の仕業だろう。